

リゾート会員権 最高値

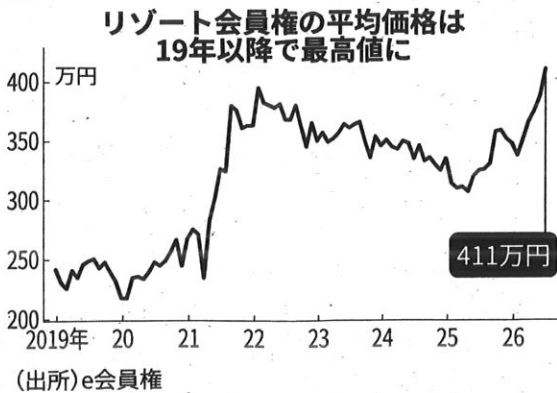
411万円円安で国内旅行回帰

7月

リゾートクラブ会員権の取引相場が一段と上昇した。7月の平均価格は411万円と、ほぼ4年半ぶりに最高値を更新した。長引く円安を背景に海外旅行の負担感が増し、国内のリゾートホテルを割安に使える会員権が注目されている。

販売を仲介するe会員権(横浜市)がまとめた。7月価格は前月比6%高くなり、5カ月連続の上昇となった。新型コロナウイルス禍で海外旅行の代替需要が旺盛だった2022年2月の395万円を上回った。比較可能なデータ

販売を仲介するe会員権(横浜市)がまとめた。7月価格は前月比6%高くなり、5カ月連続の上昇となった。新型コロナウイルス禍で海外旅行の代替需要が旺盛だった2022年2月の395万円を上回った。比較可能なデータ



最高値を更新したリゾート会員権

東京ベイコート倶楽部 (東京都) ※16階ロイヤルスイート	1250万円 (1100万円)
東急ハーヴェストクラブ 浜名湖(静岡県)	310万円 (295万円)
東急ハーヴェストクラブ 南紀田辺(和歌山県)	215万円 (200万円)

(注)7月の流通価格(カッコ内は直近高値)。施設やプランによって年間宿泊数の上限が異なる。出所はe会員権

した現役層のほか、セカンドライフの充実を望むシニア層などが買い求めているとみられる。

人気の中・低価格帯のグレード。100万円以上300万円未満の中価格帯は、全体に占める取引件数が42%と前月より8%増えた。

たとえばリゾートトラストが運営する宿泊施設の会員権「エクシブ」のなかで「交換グレードC

(ラージ)」と呼ぶ等級は、部屋の広さが平均で60〜90平方メートル。家族やグループ利用を想定した4〜5人向けが中心で、1室あたりの料金は1万円台後半〜3万円台前半となるケースが多い。

同グレードはエクシブの中でも中級クラスに位置づけられ、相場は100万円台が中心だ。初島(静岡県熱海市)や軽井沢(長野県軽井沢町)などにある同等の系列ホテルも利用できる。同社が運営する「ベイコート倶楽部」でも、300万円以下の取引件数は前月比で3倍に増えた。

人気の一因として、最近の円安や物価高を挙げ、声が目立つ。e会員権の浦井智子代表は「コロナ禍とは理由が異なるが、円安や燃油サーチャージの高止まりで海外旅行のハードルが上がっている。当時と同じように国内リゾートへ目を向ける人が増えている」と指摘する。

JTBが公表した「2026年夏休み(7月15

日(8月31日)の旅行動向」によると、海外旅行にかかる1人あたりの平均予定費用は32万3000円と前年比6・3%上昇した。国内旅行は3・2%高の4万8500円で、海外の高騰が鮮明だ。

海外旅行は渡航先の情勢などの影響を受けやすく、円安も重なってコストが上がっている。単発の海外旅行と国内リゾート会員権の価格差が縮まり、少し奮発しても気軽に非日常を楽しめる国内リゾートの魅力が相対的に高まっている。

リゾート会員権はバブル期にも投機資金の流入で価格が高騰した。今はその共働き高所得世帯(パワーカップル)が購入者の中心だった。8泊プランを導入した「MOSSHAKE岳清里」(山梨県北杜市)では世帯年収500万〜800万円の購入者が増え、裾野が広がっている。プライベートな空間で過ごすリゾート体験は、富裕層だけのものではなくなりつつある。

シェア別荘 人気集める

会員制ホテルに加え、別荘を共同所有するシェア別荘も人気を集めている。SANU(サヌ、東京・新宿)は、従来の主力だった年12泊プランに加え、宿泊日数を抑えた年8泊プランを導入した。

これまでは世帯年収1300万〜1500万円

気軽に非日常を楽しめる国内リゾートに関心(神奈川県箱根町の東急ハーヴェストクラブVIALA箱根湖悠)

